誹謗中傷のない世の中へ

岐阜市立三輪中学校 3年
渡邊 彩乃（わたなべ あやの）

「言葉は時に刃物になる」

この言葉の意味を私に改めて痛感させたのは、あるニュースを見た時でした。それは女子プロレスラーの木村花さんが亡くなったことです。原因は、SNS などの誹謗中傷による自殺だと言われています。私はこの事実を知った時、大きな衝撃が走ると同時に、今この世の中の大きな問題が現実として突きつけられたような気がしました。私たちの世代は、タブレットやパソコンなどのインターネットが身の回りにあり、それが当たり前のように生活してきました。今では、さらに、インターネットが普及し、私たちの生活をよりよいものにしてきています。しかしその反面、深刻な問題があります。それは SNS などによる誹謗中傷です。

昨年5月23日に木村花さんは 22 歳という若さで命を絶ちました。SNS は直前まで投稿されており、その投稿にもたくさんの誹謗中傷が書かれていました。

「愛されたかった人生でした。」

この言葉は、木村花さんの最後の言葉です。「お前がいなくなれば、みんな幸せ」など、心ないコメントが毎日 100 件以上書かれていました。みなさんは心が痛みませんか。全ての事実を知らない人が誹謗中傷する姿に。人を外見だけで決めつけて罵倒を浴びせる姿に。そして、その言葉一つで傷ついている人を見て。実際に私も匿名で送られてきた言葉に傷ついている友達を見ました。「匿名だから分かんないよね。」で終わることではないと思います。「いなくなればいいのに。」そんな一言でした。その子は私に何度も相談し、その度に小さく小さく心に傷がついているように見えました。どこからがイジメでどこからが誹謗中傷なんて分かりません。人それぞれ考え、受け取り方が違うので、それを決めることはできません。だからこそ、私たちは人権を尊重し合い、お互いを認める存在であるべきなのです。

新型コロナウイルスが流行する今も、世の中から誹謗中傷は消えていません。感染者が出たお店や場所を特定し、ネット上でさらし、その場所を誹謗中傷しています。何も起こってないお店まで、嘘の情報が流れ、誹謗中傷を受けています。さらに、SNS 上での炎上、差別、インターネットが普及した裏では数多くの問題が起こっています。そんな世の中が少しずつでも変わっていくことを私は願っています。

木村花さんの死を重く受け止め、この問題から目をそらさず一人一人が向き合っていくべきだと思います。みんな一人の人間です。一生懸命生きています。見た目や考え方、性格も一人一人違います。だからこそ、私達はお互いを理解した上で生活することが必要なのです。送られる本人が悪い。送った人が悪い。そうではないんです。私が、そしてあなたが、考え方を覚えて欲しいです。その言葉は誰かを傷つけていませんか？もう一度考えて欲しいです。言葉は時に刃物になります。刃物を向ければ簡単に傷つけることができます。でも、反対に守ることもできます。みんなそれぞれ悩みがあり、時にはストレスを抱えながら生活をしています。でも、どんな時でもそのストレスを人に言葉の刃物としておけてはいけないと思います。

最後に、私はどんな時でも自分の言動に責任をもち、生きていくことをここにちかいます。今、この一瞬もあなたの言葉一つで変わる人がいます。誹謗中傷のない世の中にするために。

そして「愛されてよかったと思える人生でした」と、誰もが思える世の中にするために。